

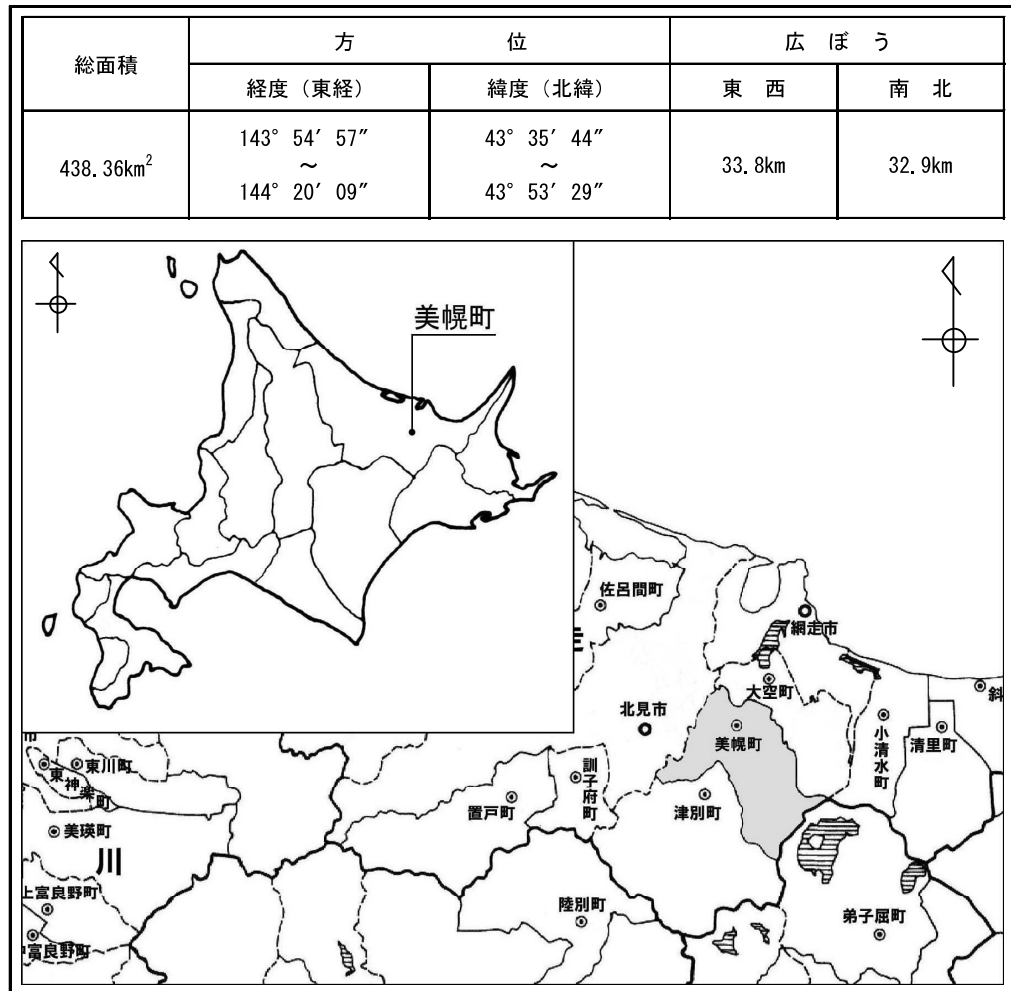
■第2章 美幌町の現況

1. 自然的現況

(1) 位置

当町は北海道の東部、網走支庁管内のほぼ中央部に位置し、東は小清水町に、西はオホーツク圏の中核都市である北見市に、南は津別町・弟子屈町に、北は大空町と1市4町に隣接し、東西 33.8 km、南北 32.9 km、総面積は 438.36 km²を有しています。

■美幌町の位置



(2) 地勢・地質

当町の地勢は一般的に高山峻嶺が少なく、なだらかな起伏によってなる高原盆地を形成し、町の中央を北流する網走川・美幌川の両岸は帯状低地原野を形成しています。

また、当町の地質は砂岩・泥岩・凝灰岩質砂岩等の三紀層・中生層・古生層を基盤にしており、その上部を丘陵地においては屈斜路湖・阿寒湖を源とする軽石流堆積物で形成され、低地においては海岸堆積物(砂礫)ないし泥炭地等に生育したヨシ等の植物遺体集積による泥炭地から成り立っています。

(3) 気象

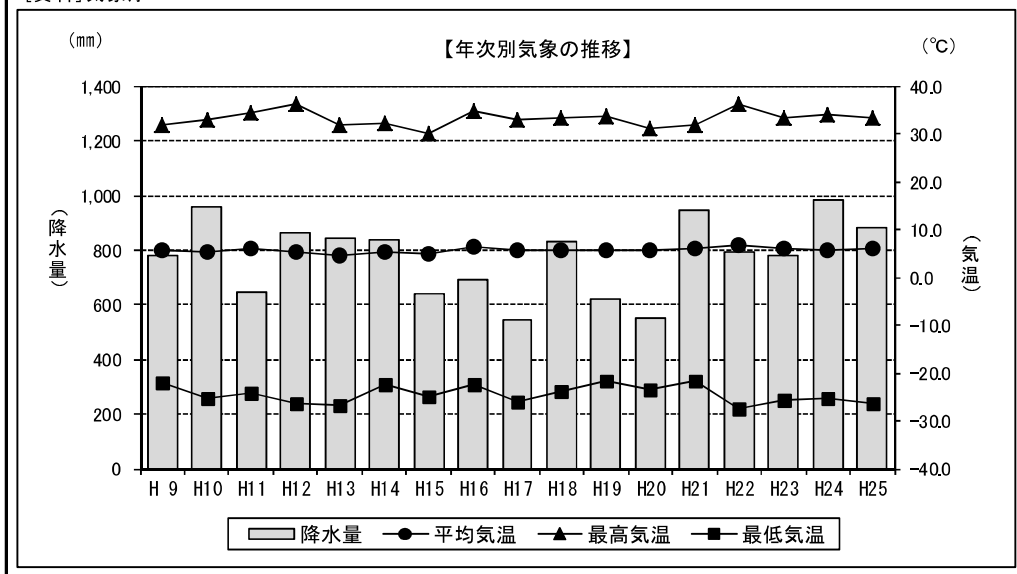
当町は、オホーツク海の海流、海霧、流氷等の影響を受けやすく、年間を通じて冷涼な気象ですが、厳寒期の -25°C 前後から8月初旬の 30°C 前後と寒暖の差は激しいものとなっています。

また、降水量は年間 800mm から 900 mm前後で道内では少ない地帯に属し、日照率の高さでは全国で有数の地域となっています。

■気象の推移

年次	降水量 (mm)	気温 ($^{\circ}\text{C}$)			風速 (m/s)		日照時間 (h)
		平均	最高	最低	平均	最大	
平成 9年	781	5.8	32.1	-21.8	1.6	10	1,684.2
平成10年	962	5.4	33.2	-25.3	1.5	8	1,713.5
平成11年	649	6.0	34.5	-24.0	1.4	9	1,763.5
平成12年	867	5.3	36.5	-26.2	1.3	8	1,800.3
平成13年	848	4.7	32.0	-26.6	1.4	8	1,810.9
平成14年	839	5.5	32.5	-22.2	1.4	9	1,796.7
平成15年	642	5.1	30.2	-24.9	1.4	10	1,961.0
平成16年	690	6.5	34.7	-22.2	1.4	11	1,774.8
平成17年	548	5.8	32.9	-25.8	1.4	10	1,663.2
平成18年	834	5.9	33.6	-23.9	1.3	8	1,643.8
平成19年	620	5.7	33.7	-21.6	1.2	8	1,685.7
平成20年	553	5.8	31.4	-23.3	2.4	12	1,846.2
平成21年	947	6.1	32.0	-21.5	2.5	14	1,744.0
平成22年	797	6.7	36.2	-27.4	2.5	13	1,845.2
平成23年	780	6.0	33.6	-25.6	2.2	11	1,924.9
平成24年	986	5.8	34.3	-25.3	2.2	10	1,763.6
平成25年	885	6.0	33.4	-26.2	2.3	13	1,813.9

[資料] 気象庁



2. 社会的現況

(1) 人口・世帯数

①人口・世帯数

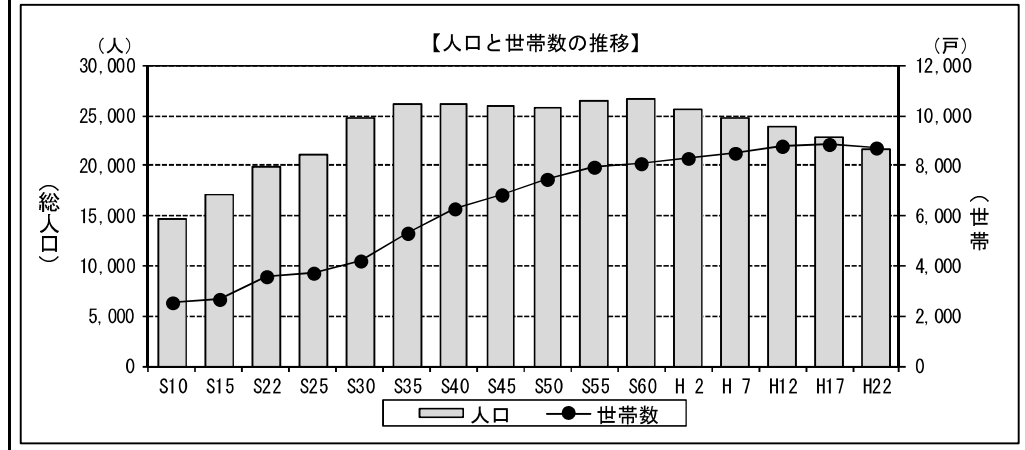
当町の人口は、昭和 60 年以降は少子化、民間事業所などの業務合理化や官公庁などの統廃合等による町外転出者の増加により減少傾向に転じ、平成 22 年では 21,575 人となっており、前計画策定時の平成 12 年と比べて 2,330 人・9.7%の減少となっています。

また、世帯数は、平成 22 年では 8,725 世帯となっており、前計画策定時の平成 12 年と比べて 35 世帯・0.4%の減少となっていることから、1 世帯当たりの世帯人員は平成 12 年の 2.7 人/戸より減少した 2.5 人/戸となっています。

■人口と世帯数の推移

年次	人 口						世帯数 (戸)		1 世帯 当たり 人 員 (人/戸)
	総 数 (人)	男 性		女 性		増減率 (%)			
		増減率 (%)	総 数 (人)	構成比 (%)	総 数 (人)			構成比 (%)	
昭和10年	14,739	—	7,597	51.5	7,142	48.5	2,564	—	5.7
昭和15年	17,041	15.6	9,098	53.4	7,943	46.6	2,692	5.0	6.3
昭和22年	19,820	16.3	9,773	49.3	10,047	50.7	3,556	32.1	5.6
昭和25年	21,104	6.5	10,578	50.1	10,526	49.9	3,711	4.4	5.7
昭和30年	24,772	17.4	13,247	53.5	11,525	46.5	4,233	14.1	5.9
昭和35年	26,207	5.8	13,638	52.0	12,569	48.0	5,321	25.7	4.9
昭和40年	26,133	-0.3	13,204	50.5	12,929	49.5	6,294	18.3	4.2
昭和45年	25,916	-0.8	13,039	50.3	12,877	49.7	6,855	8.9	3.8
昭和50年	25,853	-0.2	12,964	50.1	12,889	49.9	7,464	8.9	3.5
昭和55年	26,534	2.6	13,427	50.6	13,107	49.4	7,969	6.8	3.3
昭和60年	26,686	0.6	13,405	50.2	13,281	49.8	8,089	1.5	3.3
平成 2年	25,680	-3.8	12,768	49.7	12,912	50.3	8,280	2.4	3.1
平成 7年	24,716	-3.8	12,256	49.6	12,460	50.4	8,499	2.6	2.9
平成12年	23,905	-3.3	11,790	49.3	12,115	50.7	8,760	3.1	2.7
平成17年	22,819	-4.5	11,127	48.8	11,692	51.2	8,883	1.4	2.6
平成22年	21,575	-5.5	10,456	48.5	11,119	51.5	8,725	-1.8	2.5

[資料] 国勢調査



②年齢階級別人口

当町の年齢階級別人口は、少子高齢化の影響で15歳未満の幼年人口の減少と65歳以上の高齢人口の増加が目立っています。

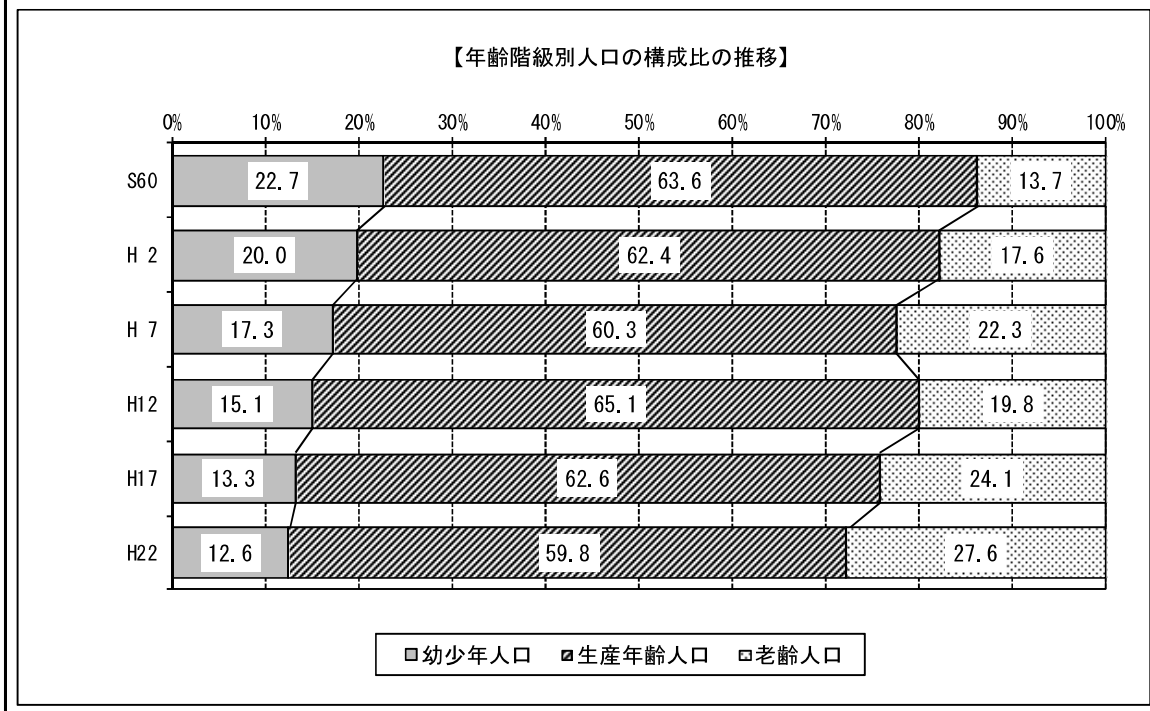
前計画策定時の平成12年と平成22年を比べると、幼年人口は886人・24.6%の減少、生産年齢人口は2,661人・17.1%の減少、高齢人口は1,217人・25.7%の増加となっています。

また、総人口に対する構成比でも幼年人口は平成12年の15.1%から12.6%に、生産年齢人口は平成12年の65.1%から59.8%に減少していますが、高齢人口は平成12年の19.8%から27.6%に増加しています。

■年齢階級別人口の推移

年齢階級	昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	総数 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	構成比 (%)
幼年人口 (15歳未満)	6,054	22.7	5,135	20.0	4,279	17.3	3,606	15.1	3,031	13.3	2,720	12.6
増減数・率	—	—	-919	-15.2	-856	-16.7	-673	-15.7	-575	-16.0	-311	-10.3
生産年齢人口 (15～64歳)	16,959	63.6	16,016	62.4	14,913	60.3	15,564	65.1	14,289	62.6	12,903	59.8
増減数・率	—	—	-943	-5.6	-1,103	-6.9	651	4.4	-1,275	-8.2	-1,386	-9.7
高齢人口 (65歳以上)	3,659	13.7	4,529	17.6	5,516	22.3	4,733	19.8	5,498	24.1	5,950	27.6
増減数・率	—	—	870	23.8	987	21.8	-783	-14.2	765	16.2	452	8.2
年齢不詳	14	0.1	0	0.0	8	0.0	2	0.0	1	0.0	2	0.0
合計	26,686	100.0	25,680	100.0	24,716	100.0	23,905	100.0	22,819	100.0	21,575	100.0

[資料] 国勢調査



③産業別人口

当町の産業構造は、第3次産業の多い都市的形態を示しているものの、その根幹は農林業を中心とする第1次産業に依存する部分が多いものとなっています。

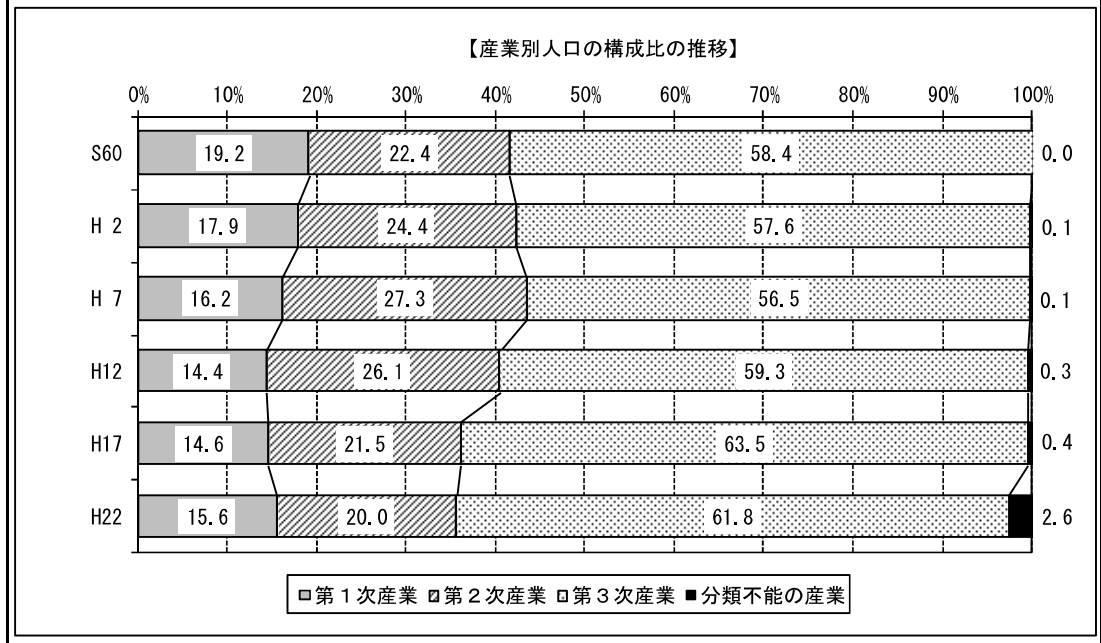
前計画策定時の平成12年と平成22年を比べると、第1次産業人口は149人・8.3%の減少、第2次産業人口は1,150人・35.3%の減少、第3次産業人口は913人・12.3%の減少となっています。

また、総人口に対する構成比では、第1次産業人口は平成12年の14.4%から15.6%に増加、第2次産業人口は平成12年の26.1%から20.0%に減少、第3次産業人口は平成12年の59.3%から61.8%に増加しています。

■産業別人口の推移

区 分	昭和60年		平成 2年		平成 7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	人 口 (人)	構成比 (%)	人 口 (人)	構成比 (%)	人 口 (人)	構成比 (%)	人 口 (人)	構成比 (%)	人 口 (人)	構成比 (%)	人 口 (人)	構成比 (%)
第 1 次 産 業	2,588	19.2	2,362	17.9	2,124	16.2	1,794	14.4	1,686	14.6	1,645	15.6
増減数・率	—	—	-226	-8.7	-238	-10.1	-330	-15.5	-108	-6.0	-41	-2.4
第 2 次 産 業	3,016	22.4	3,219	24.4	3,582	27.3	3,257	26.1	2,471	21.5	2,107	20.0
増減数・率	—	—	203	6.7	363	11.3	-325	-9.1	-786	-24.1	-364	-14.7
第 3 次 産 業	7,853	58.4	7,608	57.6	7,420	56.5	7,413	59.3	7,320	63.5	6,500	61.8
増減数・率	—	—	-245	-3.1	-188	-2.5	-7	-0.1	-93	-1.3	-820	-11.2
分類不能の産業	0	0.0	13	0.1	8	0.1	32	0.3	43	0.4	272	2.6
就 業 人 口	13,457	100.0	13,202	100.0	13,134	100.0	12,496	100.0	11,520	100.0	10,524	100.0
増減数・率	—	—	-255	-1.9	-68	-0.5	-638	-4.9	-976	-7.8	-996	-8.7
総人口(人)	26,686		25,680		24,716		23,905		22,819		21,575	
就業率(%)	50.4		51.4		53.1		52.3		50.5		48.8	

[資料]国勢調査



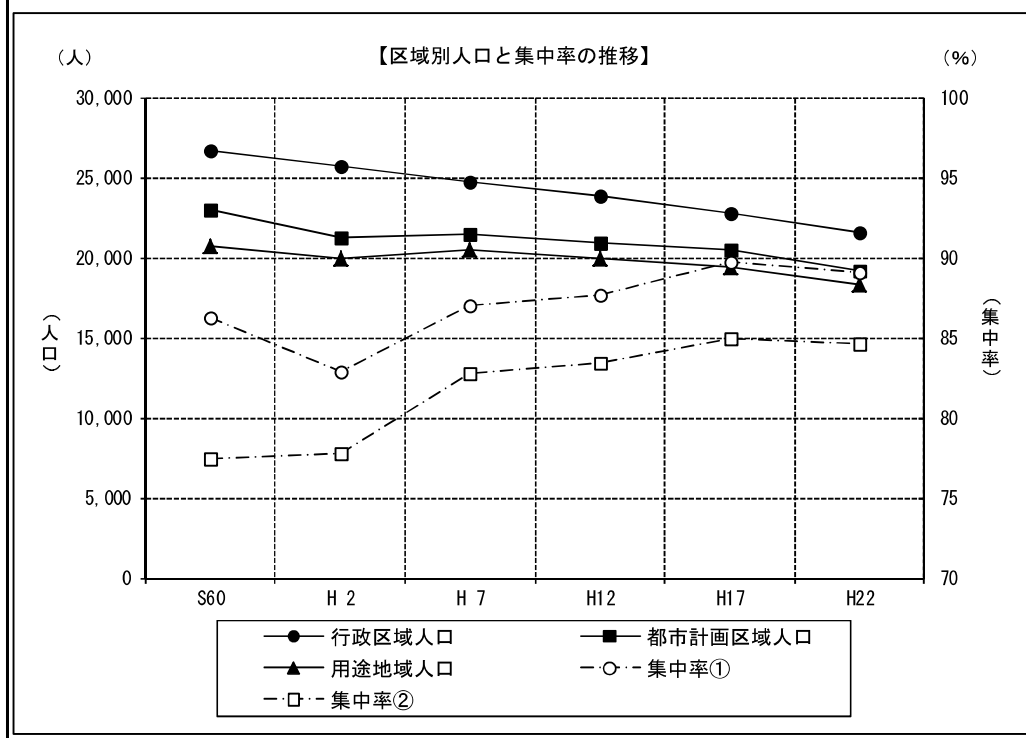
④区域別人口

前計画策定時の平成12年と平成22年を比べると、都市計画区域人口は1,731人・8.3%の減少、用途地域人口は1,675人・8.4%の減少となっていますが、行政区域人口に対する集中率は、都市計画区域で平成12年の87.7%が89.1%に、用途地域が平成12年の83.4%が84.6%に増加しています。

■区域別人口の推移

区 分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
行政区域人口 (人) A	26,686	25,680	24,716	23,905	22,819	21,575
都市計画区域人口 B	23,000	21,300	21,504	20,958	20,475	19,227
(増減数)	—	-1,700	204	-546	-483	-1,248
(増減率)	—	-7.4	1.0	-2.5	-2.3	-6.1
用途地域人口 C	20,684	19,969	20,458	19,938	19,404	18,263
(増減数)	—	-715	489	-520	-534	-1,141
(増減率)	—	-3.5	2.4	-2.5	-2.7	-5.9
用途地域外人口 (B-C)	2,316	1,331	1,046	1,020	1,071	964
都市計画区域外人口 (A-B)	3,686	4,380	3,212	2,947	2,344	2,348
集中度						
①都計区域B÷行政区域A (%)	86.2	82.9	87.0	87.7	89.7	89.1
②用途地域C÷行政区域A (%)	77.5	77.8	82.8	83.4	85.0	84.6
③用途地域C÷都計区域B (%)	89.9	93.8	95.1	95.1	94.8	95.0

[資料]国勢調査



(2) 産業

① 農業

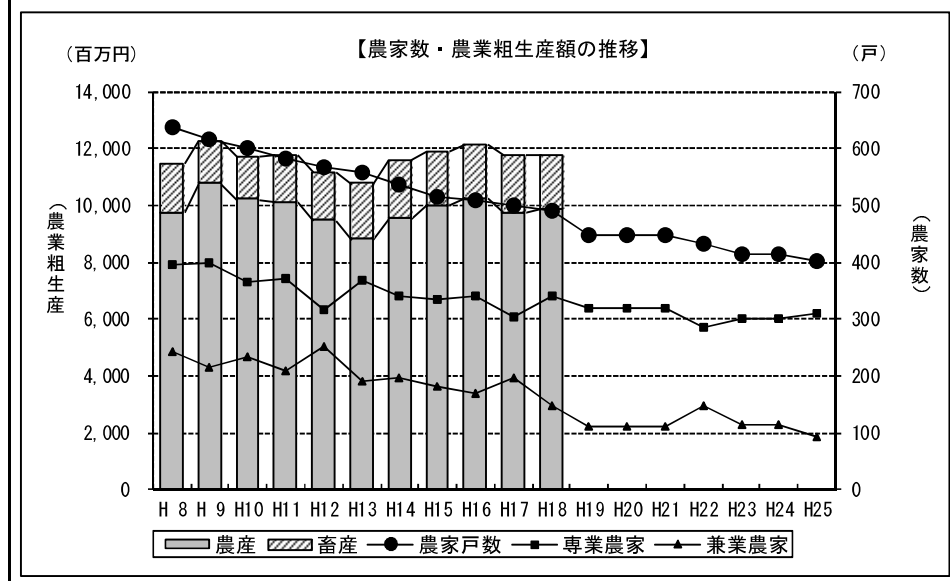
農業は当町の基幹産業であり、現在は小麦、馬鈴薯、甜菜等の畑作が中心となっていますが、農家数は減少傾向となっており、前計画策定時の平成12年の568戸から平成25年では403戸に減少し、減少率は約29.0%となっています。

また、農業粗生産額は、平成12年～13年に天候不良の影響で一時落ち込みましたが、近年は落ち込む以前の生産額に回復してきています。

■農家数・農業粗生産額の推移

年次	農家戸数(戸)		農業粗生産額(百万円)			
	専業農家	兼業農家	農産	畜産	農産	
平成8年	639	397	242	11,450	9,765	1,685
平成9年	615	400	215	12,278	10,781	1,497
平成10年	600	366	234	11,698	10,215	1,483
平成11年	582	372	210	11,776	10,137	1,639
平成12年	568	317	251	11,150	9,490	1,660
平成13年	557	368	189	10,760	8,830	1,930
平成14年	538	341	197	11,560	9,550	2,010
平成15年	516	336	180	11,890	9,990	1,900
平成16年	510	341	169	12,140	10,260	1,880
平成17年	501	304	197	11,750	9,771	1,979
平成18年	490	341	149	11,780	9,870	1,910
平成19年	449	320	110	-	-	-
平成20年	449	320	110	-	-	-
平成21年	449	320	110	-	-	-
平成22年	434	285	149	-	-	-
平成23年	414	301	113	-	-	-
平成24年	414	301	113	-	-	-
平成25年	403	310	93	-	-	-

[資料] 農業基本調査、農業センサス、北海道農林水産年報



②工業

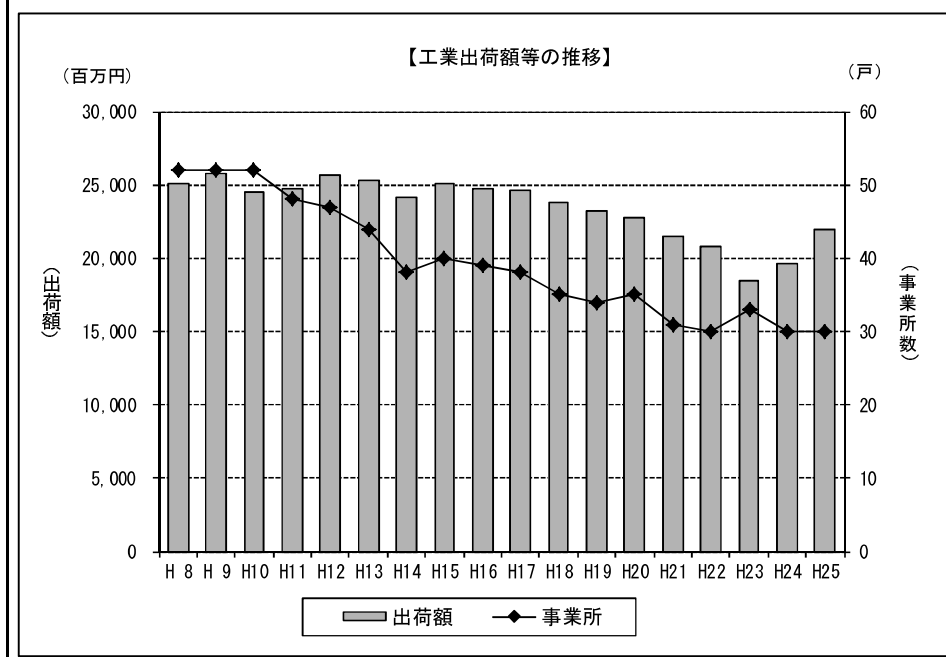
当町の工業は、第1次産業と関連した農産物を原料とする食料品製造が中心となっています。

出荷額及び事業所数とも前計画策定時の平成12年以降は徐々に減少しており、事業所数は平成12年と平成25年を比べると18事業所・38.3%の減少となっています。

■工業出荷額等の推移

年次	事業所数			従業員数 (人)	出荷額 (万円)
		増減数	増減率(%)		
平成8年	52	—	—	1,276	2,511,632
平成9年	52	0	0.0	1,270	2,575,518
平成10年	52	0	0.0	1,235	2,452,610
平成11年	48	-4	-7.7	1,239	2,474,063
平成12年	47	-1	-2.1	1,265	2,562,635
平成13年	44	-3	-6.4	1,208	2,534,303
平成14年	38	-6	-13.6	1,085	2,410,894
平成15年	40	2	5.3	1,075	2,513,341
平成16年	39	-1	-2.5	1,030	2,474,178
平成17年	38	-1	-2.6	1,167	2,460,405
平成18年	35	-3	-7.9	1,087	2,380,762
平成19年	34	-1	-2.9	1,115	2,326,158
平成20年	35	1	2.9	1,119	2,275,717
平成21年	31	-4	-11.4	1,148	2,153,095
平成22年	30	-1	-3.2	1,064	2,073,833
平成23年	33	3	10.0	1,233	1,850,359
平成24年	30	-3	-10.0	1,121	1,966,647
平成25年	29	-1	-3.0	1,169	2,190,293

[資料]工業統計調査



③商業

当町の商業は、町経済に占めるウエイトも高く、かつ当町の都市的機能を高める上でも大きな役割を果たしています。

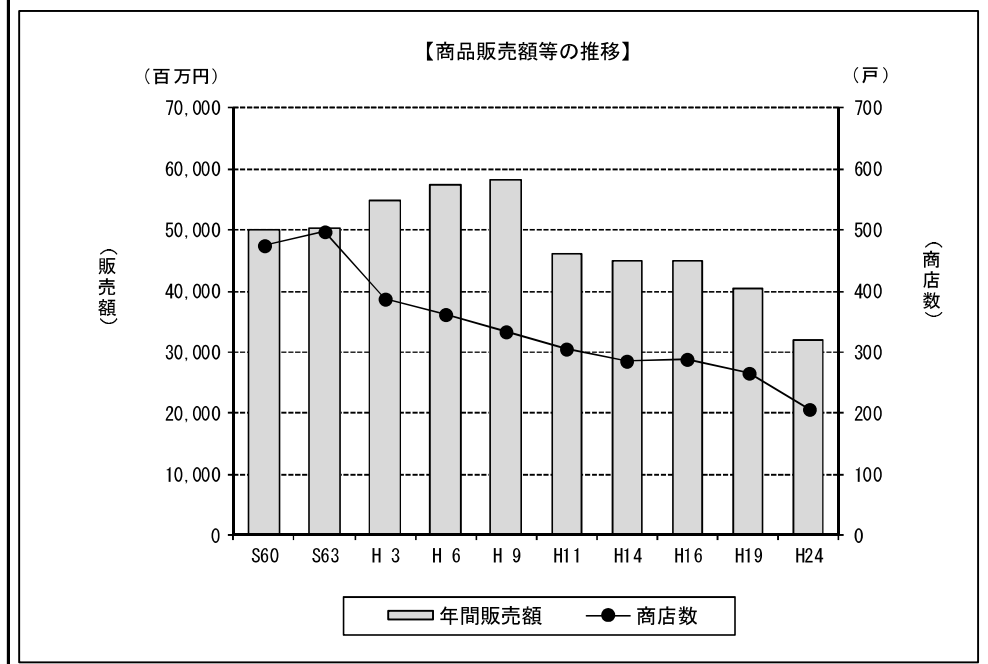
販売額では前計画策定時の平成11年以降はほぼ横這い状況から減少に転じていますが、商店数は徐々に減少しており、平成11年と平成24年を比べると99商店・32.4%の減少となっています。

商店街は、中心市街地の国道沿道に形成されていますが、急速なモータリゼーションの進展や郊外への大型小売店の出店などにより、空き店舗が増加するなど中心市街地における商店街の空洞化が進んでいる現状となっています。このような状況を踏まえ、当町では平成16年度に中心市街地活性化法に基づく「美幌町中心市街地活性化基本計画」を策定し、計画的な中心市街地及び中心商業地の活性化に取り組んでいる最中です。

■商業販売額等の推移

年次	商店数	増減		従業員数 (人)	年間販売額 (万円)
		増減数	増減率(%)		
昭和60年	476	—	—	2,324	4,999,535
昭和63年	496	20	4.2	2,508	5,026,869
平成3年	388	-108	-21.8	1,975	5,471,187
平成6年	363	-25	-6.4	2,107	5,745,255
平成9年	334	-29	-8.0	1,951	5,816,581
平成11年	306	-28	-8.4	2,007	4,604,871
平成14年	286	-20	-6.5	1,937	4,488,652
平成16年	289	3	1.0	2,123	4,507,831
平成19年	267	-22	-7.6	1,839	4,047,174
平成24年	207	-60	-22.5	1,377	3,189,500

[資料]商業統計調査、経済センサス



④観光

当町は、昭和9年の阿寒国立公園の指定以来、北の玄関口として交通の要衝にあることから、知床、大雪、阿寒、網走の国立国定公園を結ぶ交通の中心地となっており、さらに知床が平成17年5月に世界遺産登録されたことにより、知床や流氷をはじめとしたオホーツク観光を周遊する基地的役割を担っています。

観光入込客数は、前計画策定時の平成12年以降は一時110万人台まで盛り返しましたが、平成17年からは減少傾向となっており、平成12年と平成25年を比べると354.9千人・33.4%の減少となっています。また、近年の観光客入込数は、夏期（6～9月）の減少が見られますが、その他の季節は微増している傾向となっています。

■観光入込客数の推移

区分	観光入込客数（千人）						
	総数	増減数		春期 (4～5月)	夏期 (6～9月)	秋期 (10～11月)	冬期 (12～3月)
		増減数	増減率（%）				
平成8年	1,319.7	-14.5	-1.1	82.6	1,050.6	142.1	44.4
平成9年	1,299.4	-20.3	-1.5	83.2	1,051.2	125.2	39.8
平成10年	1,270.0	-29.4	-2.3	89.1	1,024.9	117.3	38.7
平成11年	1,238.3	-31.7	-2.5	89.7	997.3	121.2	30.1
平成12年	1,061.5	-176.8	-14.3	99.5	832.5	103.7	25.8
平成13年	1,018.0	-43.5	-4.1	94.6	790.8	112.1	20.5
平成14年	1,178.6	160.6	15.8	100.1	912.4	143.8	22.3
平成15年	1,174.4	-4.2	-0.4	213.2	805.3	138.2	17.7
平成16年	1,173.3	-1.1	-0.1	230.9	766.2	114.7	61.5
平成17年	1,042.5	-130.8	-11.1	183.3	693.7	107.5	58.0
平成18年	962.7	-79.8	-7.7	182.4	627.2	99.6	53.5
平成19年	864.0	-98.7	-10.3	164.1	565.0	89.5	45.4
平成20年	794.0	-70.0	-8.1	106.8	537.0	97.2	53.0
平成21年	745.2	-48.8	-6.1	96.1	510.2	91.1	47.8
平成22年	809.7	64.5	8.7	91.4	560.6	107.5	50.2
平成23年	790.1	-19.6	-2.4	80.5	563.4	106.5	39.7
平成24年	765.6	-24.5	-3.1	87.0	531.8	107.7	39.1
平成25年	706.6	-59.0	-7.7	114.7	428.9	112.1	50.9

[資料]観光入込客数調査報告書

